



阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、発生しうる災害に対し、

正しい知識と適切な判断力を兼ね備えた人材を育てようと、防災士制度は生まれました。

新しい社会構造に沿った住民自律型の防災体制の担い手として、事前の防災活動や災害発生時に役に立つ知識を学び、
「防災・減災の知識と意識」を身につける、それが防災士資格です。

家族を守りたい



- 子供たちにも防災の知識を伝え、家族が安全に暮らせるようにしたい
- 日中の被災も意識した女性視点の防災対策を考えたい
- タワーマンションに暮らしており、巨大地震等に備えておきたい

地域を守りたい



- 高齢者、障がい者、外国人…みんなが安全に暮らせる街づくりを目指す
- 消防団・自主防災組織での、地域防災に対する取り組みをより良いものにしたい
- 避難場所となる公園や公共施設の在り方を市民視点からも考えていきたい

職場を守りたい



- 社内の防災担当に任命されたが、何から始めればよいかわからず悩んでいた
- 商品開発、提案、販売促進のために防災知識を身につけたい
- 災害から会社施設を復旧に導くBCPの策定と地域貢献活動(CSR)に取り組んでいきたい

家庭で活躍する防災士



- 保育園や学校と協力して安否確認方法の取り決めや避難訓練を始めた
- 小中学生向けの防災授業や、防災宿泊学習に取り組むようになった
- 災害時でもおいしく食べられるレシピを考えるなど、女性視点の対策を事前に始めるようになった
- 近隣住民と親睦を深め、管理組合と協力してマンション単位での避難訓練を行っている

地域で活躍する防災士



- 避難する際に手助けが必要な人を意識した防災訓練等をハザードマップを活用し、行うようになった
- 地元消防署と協同して町内全体で定期的な防災訓練を始めるようになった
- 町内の防災士と協力して、研修講座で学んだ災害図上訓練や避難所運営の講習会を始めた
- 災害時対応マニュアルを作成、訓練を繰り返して避難方法を確認するなど、町内の防災力向上を目指している

職場で活躍する防災士



- 社内の備蓄品を見直し、防災マニュアルを作成し、会社全体での社員の安全防災対策を始めた
- 災害を理解することで、お客様に必要とされる防災用品の開発や提案が出来るようになった
- メディア関係者として視聴者や読者へわかりやすく伝える方法を見直す基礎が出来た
- 近隣住民と協力して被害を想定し、合同で防災訓練を始めるようになった

防災士は日本全国でそれぞれの分野での 防災・減災に向けた活動に取り組んでいます。

現在、防災士として活躍されている方の中には、当初「防災に対して何をすれば良いかわからない」という意見もありました。防災に関する知識だけでなく、その取り組みの参考となる事例が詰まっており、受講後「災害に備える考えの基礎が出来た」「まず何を始めれば良いのか分かった」との声をたくさん頂きました。防災士研修講座は、皆様の今後の防災・減災活動への確かな出発点となります。



お申込み前に



助成制度の有無をお住まいの市町村役場窓口へお問い合わせください

全国の自治体では地域防災力強化のために、さまざまな取り組みが行われています。防災士資格取得についても助成制度を設け、住民の防災士資格取得を支援する自治体があります。申込み前にお住まいの自治体窓口へ助成制度の確認をお願いいたします。

また、防災士研修を地元で開催することも可能です。地域や職場の防災力向上の担い手として、お住まいの地域での開催も検討してください。

※自治体によって助成制度の内容が異なっており、全ての住民の方が助成の対象となるわけではありません。
詳細は各自治体担当窓口までお問い合わせください。
※防災士養成講座の開催には諸条件がございます。お気軽にお問い合わせください。

防災士資格取得 までの費用合計

61,900円 税込

防災士研修講座受講料 49,000円 + 税
防災士資格取得試験受験料 3,000円
防災士資格認証登録料 5,000円

■資格取得に関する特例について

消防署で消火、救助救急の実務を経験された消防吏員の方（退職者の方を含む）、あるいは、日本赤十字社の所定の教科を修了し、赤十字救急法救急員の資格を取得されている方々には防災士資格の取得につきまして特例規定が適用されます。詳しくは日本防災士機構までお問い合わせください。

■受講コースの変更

正式申込後（資格取得費用ご入金後）～受講前にご自身の都合によりコースの変更をご希望の場合、コース変更手数料3,000円（変更のつど）を申し受けた上でコース変更を承ります。

■受講登録の取り消し

正式申込後（資格取得費用ご入金後）の取り消しは原則承っておりません。
やむを得ず取り消しをご希望の方は、右記の金額を取消料として申し受けます。

■在籍期間について

会場研修未修了、防災士資格取得試験未受験、防災士認証登録の受講者様は、当該年度の翌年度末（毎年3月31日まで）が在籍期間となり、その間に限り、適宜コース案内・試験案内・登録のお願い等を当センターより送付いたします。それ以降は在籍期間失効となりますので、受講・受験・登録につきましては早目にご連絡ください。（在籍期間失効後は登録料等の返金には応じかねますのでご了承ください。）

学生の方には学割適用！

36,600円 税込

（適用には条件がございます）

〈取消受付日と取消料〉

正式申込後～当センターからの教材発送前に取消通知をされた場合 …… 5,000円
教材発送後から8日目の間に取消通知をされた場合 …… 10,000円
7日目～前日に取消通知をされた場合 …… 20,000円
会場研修当日以降に取消通知をされた場合 …… 56,900円
および取消通知をされなかった場合

※お振込みいただいた金額から上記取消料と振込手数料を差し引いて返金致します。
※取消通知は受講登録された研修コースの会場研修初日から計算します。
※取消通知日は取消のお申し出に対し、当センターから取消お申し出受付のご案内をお送りした日を指します。

〈お問い合わせ・資料請求〉

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館7 階

電話 (03) 3556-5051 FAX (03) 3556-5535

<http://www.bousaishi.net/>



Bousaishi Training Center

防災士研修センター

日本防災士機構認証研修機関

防災士になる。

防災士は、家庭や職場、地域の防災力向上の資格です。

—— 助けられる人から助ける人へ ——



Bousaishi Training Center

防災士研修センター

日本防災士機構認証研修機関

「助けられる人から助ける人へ」その気持ちが防災士への第一歩です

今後発生するであろう巨大地震及び、頻発する気象災害に対して何ができるのか。

災害は突然やって来ます。必ず来る「その日」に、あなたが最善を尽くせる為に、

そして、過去の災害を教訓だけに留めない為に、

防災・減災の知識と意識を身に付け、防災活動の第一歩を踏み出してみませんか。

オリジナルの学習教材と各分野の著名な講師陣による授業が、防災知識の向上と今後の活動を支えます。



防災士研修センターは「防災士制度」発足以来、全国各地で1,000回以上の研修を実施し、高い評価と信頼を得ております。

充実の
授業内容

2日間の座学を受けることで防災に関して必要な一般知識と地域特性に関係する知識を習得することができます。受講生同士で話し合いながら取り組む演習では、さまざまな意見・視点を知るだけでなく、防災の志を持つ仲間と出会えます。

安心の
合格率90%以上

幅広い年齢の方が安心して試験に取組めるように、当センターオリジナルの教材（事前学習レポート／試験対策ブック）を用意しております。オリジナル教材で学習することにより、教本全体を理解できるだけでなく、実際の試験と同じ形式での学習が可能です。

講師は、防災界を代表する方々です（50音順）



研修モデルプログラム（参考例）※下記内容は参考例です。各研修会場によって時間及びカリキュラムは異なります。

1日目

9:00	受付	会場にて受付を行います。受付の際に履修確認レポートをご提出ください。
9:15～9:30	オリエンテーション	防災士研修の流れや資格取得試験・防災士認証登録に関する説明を行います。
1時限目 9:30～10:30	防災士に期待される活動	現代社会で防災士に期待される活動について、実際の防災士の活動を交えつつ学びます。
2時限目 10:40～11:40	地震・津波による災害	4つの巨大プレートの上に存在する日本では地震の発生は避けられません。地震と津波の発生メカニズムを理解することで、今後起こりうる災害とその対策について理解が深まります。
3時限目 11:50～12:50	災害情報の活用と発信	防災と災害に関する様々な情報の種類と活用方法について、また災害時に起こりやすい流言や風評被害などで惑わされずに正常な判断が出来る様に学んでいきます。
12:50～13:50	昼休み	防災ビデオの上映（視聴は任意です）
4時限目 13:50～14:50	土砂災害	日本の国土には52万か所を超える土砂災害危険箇所があります。土砂災害の種類や、発生しやすい地盤・地質、誘因となる地震や豪雨との関連が学べます。
5時限目 15:00～16:00	地震・津波への備え	予測困難な地震・津波への対策は、事前の備えが重要です。家具固定や備蓄のポイント、発災時の場所別の身の守り方を学び、防災対策の基本的な心得を学ぶことができます。
6時限目 16:10～17:10	風水害・土砂災害等への備え	風水雪や土砂災害が起こる前の情報の集め方、避難の仕方を学べます。また普段から住んでいる地域の特徴やハザードマップの情報を知ることの重要性を理解できます。

2日目

9:00	受付	会場にて受付を行います。
9:15～9:30	防災士制度の紹介	防災士資格10年の歩みを紹介するビデオ上映
1・2時限目 9:30～11:40	防災士が行う各種訓練 被害想定・ハザードマップと避難（講義と演習）	防災・減災において重要なことは「災害をイメージする」ことです。地震や豪雨が発生した場合、どこでどのような被害が起こるのか、どんな対策が必要か、地形図と被害想定図を用いて災害図上訓練の方法を学びます。ぜひ家庭や地域、職場でも実践してください。
3時限目 11:50～12:50	気象災害・風水害	多くの自然災害が予測困難で、突然発生するのに対し、台風や大雨は天気予報などを通じて情報を得ることで、事前に備えることが出来ます。風水害の発生しやすい状況を知り、災害への備え、避難方法を学ぶことができます。
12:50～13:50	昼休み	防災ビデオの上映（視聴は任意です）
4時限目 13:50～14:50	行政の災害対応と危機管理	行政が行う災害対策を実際の事例を踏まえて学び、あわせて危機管理活動の分類等の基本的な知識を得ることで危機管理の本質を理解できます。
5時限目 15:00～16:00	耐震診断と補強	大事だとわかっていながら多い中、なかなか浸透しない耐震補強の重要性を学ぶことで、身近な人を守ることが出来ます。
6時限目 16:10～17:10	自主防災活動と 地区防災計画	地域の自主防災活動の重要性を学び、住民自らが作成を行う地区防災計画についての要点を押さえます。また地域ごとの特性に応じた防災活動について理解を深めます。
17:30～18:30	防災士資格取得試験	制限時間は50分間、全30問出題、されます。解答を終えた方から退出が可能です。

お申し込みから防災士資格取得までの流れ

防災士研修講座は「自宅学習（履修確認レポート／試験対策ブック）」と「会場研修」の2本立てで構成しています。

STEP 1 受講申込

①ご希望の研修会場をお選びください。

最新の会場状況は、ホームページまたはお電話でお問い合わせください。

②ホームページまたはFAXからお席の仮予約を行ってください。

③正式申込を行ってください。

資格取得費用のご入金手続きをもって正式申込となります。
お申し込みのコースにより入金締切日が異なります。コース一覧にてご確認ください。

STEP 2 自宅学習

①研修の3～4週間前に教材が送付されます。

「防災士教本」の他に「履修確認レポート」「試験対策ブック」が届きます。
届いた教材をもとに事前課題（履修確認レポート）への取組みと試験に向けた自宅学習をお願い致します。

②事前課題は研修初日にご提出いただきます。

別途、救急救命講習の受講が必要です。

※会場研修前に受講されることを推奨いたします。



STEP 3 会場研修 + 資格取得試験

①会場研修を受講してください。

会場ではさまざまな分野で活躍されている著名な講師陣の講義を受講いただき、災害のしくみや防災士としての役割等について学び、研修プログラムは各会場ごとに地域特性を考慮し、座学と演習で構成されております。

②防災士資格取得試験

研修2日目の最後に資格取得試験が実施されます。

試験範囲：該当年度の防災士教本内

出題数：30問（三択形式）

試験時間：50分

※万が一、試験に不合格になった場合は、再試験が可能です。



STEP 4 認証登録 申請

防災士資格取得には

- 防災士研修講座の受講（履修確認レポートの提出・修了＋会場研修2日間出席）
- 救急救命講習の修了
- 防災士資格取得試験の合格の上、申請に必要な書類の提出が必要となります。日本防災士機構に認証登録申請をすることにより、防災士台帳に登録され、防災士としての第一歩が始まります。

※書類の提出は研修会場でも可能ですので、必要書類が事前に揃う方は、会場での提出を推奨いたします。
※認証登録の申請後、防災士資格認定証一式が手元に届くまでに時間がかかる場合がございます。

